



六浦南小

学校だより

本校学校教育目標：健康で笑顔がすてきな子

第 359 号

令和 5 年 2 月 28 日

横浜市立六浦南小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsuuraminami/> TEL785-3244 Fax783-6984



締めくくりの春 大切な季節

校長 柏原 奈保

明日からいよいよ一年間の締めくくりの月、3月が始まります。正門の脇の梅もきれいな花を咲かせています。気候も春めいてきました。

春は、三つの段階を経てやってくるそうです。初めに来るのは、「光の春」。確かに、雪が降るほどの気温でも、日差しに春を感じることがあります。冬至のころに比べると昼の時間が長くなり、太陽光は1.5倍ほどの強さになっているそうです。動物や植物の中には、気温の変化より光に反応し目覚めるものも多くいるそうです。「寒い、寒い」と思っている、木々の芽は膨らみ、花が咲き、植物は春の訪れを知らせてくれます。

次に来るのが「音の春」。雪の多い地方では、雪解けで水がしたり落ちる音や雪解けて増水した川の音などが春を知らせてくれるそうです。鳥の声も春を知らせてくれます。まだ練習を始めたばかりのうぐいすの声、春を喜ぶ雀の声などを聞いていると、私はうきうきした気持ちになります。

そしていよいよ春本番になり「気温の春」がやってきます。「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉にもあるように春分の日を過ぎるあたりから気温も15度を超えるようになると、本格的な春の訪れです。ちょうど桜の開花も始まるこの時期、学校では、卒業式や修了式、そして入学式や始業式の季節になり、一年間で最も大切にしたい時期になります。今年もいよいよ、この大切な時期が近づいてきました。

今年度は、コロナ禍3年目で、コロナと共存しながら、いかに子どもたちの学校生活を充実させていくかを探った一年でした。春には全校での運動会を実施し、保護者の方々にも子どもたちが頑張る姿を見ていただくことができました。夏には2年間でできなかった水泳の学習を行うこともできました。秋から冬にかけては、3年ぶりに区音楽会や区球技大会、区個別支援級学習発表会が開催され、学校だけでは体験できない貴重な学びとなりました。日常の学習でも、グループでの話し合いやともに行う実験、実習など、子ども同士が触れ合って、ともに学習を進める機会が増え、仲間と学び合う中で学びを深める姿も見られました。

さて、令和5年度は、コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけも変わります。それに伴い、学校での学習や生活も変化が出てくると思われます。しかし、コロナ禍の生活を経験した子どもたちは以前の子どもたちとは違ってきていると感じます。制約がなくなったから元の活動を行おうではなく、今の子どもたちにとってどのような学習や活動がよいのかを考えながら、新たなスタートの時期ととらえ、「健康で笑顔がすてきな子」の育成に向けて進んでいきたいと考えております。

今年度、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、そして様々な面でご支援いただきましたこと、大変ありがたく感じております。感謝申し上げます。来年度も、引き続き、よろしく願いいたします。